

銚子を、動労千葉破壊の 『出先機関』にはならない!

日刊 動労千葉

81. 1. 19

No. 635

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五七六(公衆)品三二七二〇七

組合引きまわしの本音をはいた 『再建デマ情報』37号(1/2付)

銚子支部の組合員のみなさん。
動労「本部」反動分子が三ヶ月ぶりに発行した「千葉地本再建情報」なる「デマ情報」No. 36号を見ましたか。例によってわが動労千葉に対して彼ら特有のデマと中傷・悪ばの限りをつくした雑文であります。この文中で唯一彼らの本性をあらわしたものがありません。それは、「團結署名」においても過半数をこえる組合員が署名をしており「などというくだりであります。一体ぜんたい、いつ、どこで、この團結署名なるものが行われたというのでしようか。さすがの右翼ヤクザ分子石毛(一)ですら「こんな事実はない」と言明し、菅谷(任)にいたっては「三信ビルに抗議する」とまで言い出すしまつです。

「團結署名」は、「本部」反動分子のペテンの手口

この「團結署名」は過半数をこえた「なる大デマ」こそ、「本部」反動分子は動労千葉を破壊するためには、労働運動とは無縁なあらゆるペテンの手口を使うということを自己暴露した以外のなにもありません。銚子支部を私物化し、動労千葉破壊の「出先機関」にしたてあげるためには「本部派」と称する銚子内悪質分子の迷惑など一切無視して行いやり方こそ「本部」反動分子のファッショの手口なのであります。

多分この「團結署名」と称する理由は、昨年末銚子内一部執行部が執行委員会にはからずカゲにまわってこっそりと「支部全体をまとめるために署名してくれ、○全体がまとまれば執行部に一任してくれ、○『本部』につくため署名してくれ」と、人によって三通りのペテン的理由を使いわけて署名をだましとったことをもっているのではありません。

このやり方自体、組織運営のルールを無視したデタラメな行為であるのは明らかですが、このデタラメを上塗りするものが「團結署名過半数をこえた」なるペテンをもって組合員を「本部」反動分子のもとにつなぎとめ動労千葉解体の手先にしたてようとするものです。

「業務再開」は「本部」反動分子の手先になること

このようなペテンをもってなにゆえに「業務再開」を行なおうとするのでしようか。
それは、銚子支部組合員の利益など爪のあかほども考えずにただひたすら動労千葉解体、八一・

三闘争つぶしの為に銚子支部を利用せんとするものです。現実に革マル分子村上某、中村某等は、これで動労千葉解体の足がかりができた等と「喜びいさんで」勝浦、館山、新小岩支部に「オルグ」と称して「デマ情報」をバラマクために侵入してきています。もちろん彼らは職場で誰れにも相手にされず重い足をひきずって帰るのがおちですが、このように銚子の動きに連動して再び動労千葉各支部への「破壊オルグ」が開始されたことは断じて許すことはできません。

大川、石毛(一)等は「俺達は動労千葉に敵対するつもりはない。『本部』は動労千葉解体といっていない」と等と自らのとった反動的行為の責任を回避せんと卑劣な言い逃れを続けていますが、銚子と連動した「本部」革マル反動分子のこの動きをどう説明するのでしょうか。石毛(一)君、言い逃れができないように次の実物を見るがいい。「動力車新聞」ですら「千葉動労解体」と報じているではないか。

銚子の組合員をこれ以上だまして「本部」反動分子の手先になることを直ちにやめるべきである。銚子支部の組合員のみなさん。あらゆる妨害をはねのけ、動労千葉とスクラムを組んで共に進もう。

千葉動労の一日も早い
解体で再建の実現めざす
現行の「本部」は、銚子支部の組合員のみなさん。あらゆる妨害をはねのけ、動労千葉とスクラムを組んで共に進もう。

千葉動労の解体こそが、再建の本音。
千葉動労の解体こそが、再建の本音。